




<お子さんの目の機能の発達について>

目の構造は、すでに胎児の時にできあがりますが、大人と同じような目の働きができるようになるには、6才頃までかかります。それまでの期間に両目を正しく十分に使うことで子どもの目は正常に発達していきます。

目の異常は早期に気づいて治療することが大切です。
気になる症状があったら、早めに眼科を受診しましょう。



●視力の発達について

4か月 0.02~0.05	6か月 0.04~0.08	1歳 0.2~0.3	2歳 0.5~0.6	3歳 1.0程度
				
お母さんの顔が はっきり見える ようになります。	この頃より 3歳ころまでの間に 急成長します。	窓から遠くの ものを見る ようになります。	遠くのもの と 近くのもの が 区別できます。	視力が1.0以上の 子どもが 67%になります。

●知っておきたい目の異常

①屈折異常

近視（遠くが見えにくい）、遠視（近くが見えにくい）、乱視（物がゆがんで見える）

②弱視 ※近視とは違います

遠視や斜視が原因でなる子が多く、長期間目を使わずにいたので視力が低下した状態。

③斜視

内斜視（片目が内側にずれている状態。遠視や弱視を伴っていることが多い）

外斜視（片目が外側にずれている状態。ほとんどが間欠性外斜視と呼ばれているもの
時々外斜視になるので気がつきにくい）

上下斜視（片目が上下いずれかにずれている状態）

●気になるしぐさ

・頭を傾けて
見る



・あごを上げたり
下げたりして見る



・片目を
つぶって見る



・上目使いで
見る



・横目使いで
見る



●3歳になったら視力検査をしましょう

3歳は、視力が急速に発達する時期です。3歳になると簡単な視力検査が可能になり、眼科的な異常があっても治療がしやすくなります。（3歳児健康診査では、事前に視力検査の用紙を自宅に郵送させていただきます。自宅で視力検査を行ってみてください。）